

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月10日

1 令和7年度の重要課題及び重点事項

- ◎ **知** 「学ぶ力の育成」・・・学習指導の工夫改善A
- ◎ **徳** 「豊かな心の育成」・・・道徳教育の充実、いじめ・不登校・命の指導の充実
- ◎ **体** 「健やかな体の育成」・・・食育の推進、心身の健康増進（運動・体力・生活）
- ◎ **信頼** 「信頼される学校の創造」・・・小中及び地域社会との連携の推進

2 学校教育目標～望まれる生徒像に対する自己評価結果

| 重点 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|----|---|--|--|----------|---------|
| | | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| | 望まれる生徒像（健やかで意欲的に学ぶ心豊かな生徒）の育成に努め、その成果が表れている。 | B | 教職員と生徒の認識差を埋めるため、活動の節目で『望まれる生徒像』に照らした振り返りを行い、成長の可視化を図る。また、学校だよりや学年PTAなどで具体的な生徒の姿を共有し、家庭や地域との共通理解を深めることができるように発信の方法を工夫する。 | A | A |
| | 学校関係者評価委員による意見 | 個人の成長が実感できることは生徒にとって大きな励みとなる。望まれる生徒像を生徒や保護者と共有しつつ、生徒それぞれの個性が認められ、伸ばされていく環境になるよう期待する。 | | | |

3 教育推進の重点に対する自己評価結果

| 重点 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|-----------------------------|---|---|---|----------|---------|
| | | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| と 教育課程の 充実 の 推進 | 校内研修に意欲的に取り組んでいるか。 | A | 研修や授業改善への意欲は高い一方で、組織的な研修体制には改善の余地を感じている教職員が一定数存在するため、今後は短時間で実践に直結するワークショップ形式やICT活用研修を推進する。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現していく。 | A | A |
| | 学校関係者評価委員による意見 | 忙しい中での研修にも具体的な工夫が見られ、素晴らしいと思う。ICTやワークショップを軸とした効率的な研修を継続し、その成果が日々の深い学びに直結していくことを期待する。 | | | |
| 学年・学級経営の充実 | 学校行事（体育大会、文化祭合唱部門、学校祭、旅行的行事等）は充実している。 | A | 三者共に9割超の極めて高い評価を得た。今後は、現状を維持しつつ、生徒の主体性をさらに引き出すため、企画・運営段階での生徒の裁量を広げ、社会に生きて働く「本物の経験」を生み出す工夫をしていく。また、行事を通じた成長の姿を積極的に発信し、家庭や地域との共有を図り、地域とともにある学校づくりを推進していく。 | A | A |
| | 学級活動や生徒会活動などは活発であり、生徒は積極的に参加している。 | B | 教職員等の高評価に対し、生徒の肯定率が低い点が課題である。今後は、「さっぽろっ子自治的な活動」を踏まえ、生徒の意見を反映した企画や、全員が役割をもって活躍できる場を拡充する。主体性を育む運営を工夫し、『自分たちの活動』という実感を深めることで生徒自身の満足度と参画意識の向上を図っていく。 | A | A |
| | 学校関係者評価委員による意見 | 生徒の自主性を引き出すための働きかけや、まずやってみようという教員側の待つ姿勢が大切である。生徒の行事への意欲は高い。生徒会のような自治的な活動を高める工夫が望まれる。 | | | |
| 学習意欲を高める指導・援助の工夫 | 「わかる・できる・楽しい授業」を行うように工夫し、授業改善を図っている。 | A | 教職員の自己評価に対し、生徒の肯定率は86%に留まる。今後は、ICTの効果的な活用や個別最適な学びを推進し、生徒一人一人の主体性を大切にした多様な学びを実現していく。また、「学びのコントローラーをもっているのは子ども自身」をコンセプトに、ARサイクルの視点から、教師自身が授業改善をしつつ、課題探究的な学習の充実をより一層図っていく。 | A | A |
| | 点数だけで判断せず、生徒のあらゆるよい面を見て学習評価をするように努めている。 | A | 学習に対する取組状況を丁寧に捉え、積極的に認めようとする授業計画を実施することができた。今後は、評価基準の事前提示やフィードバックをより一層充実させ、評価の透明性を高めていく。さらに、数値に表れない努力や成長を具体的に伝え、生徒が「自分の良さが認められている」と実感できる評価を推進していく。 | A | A |
| | 学校関係者評価委員による意見 | 平均点や順位の公開を求める声があるが、相対評価から絶対評価に変わってしばらく経っている。取組の方向性は間違っていない。数字にとられない努力や成長を伝える工夫をしてほしい。 | | | |
| 共通理解に基づいた生徒指導 | 生徒から相談があった場合、話をよく聞き、適切に対応している。 | A | 健康観察アプリを効果的に活用することができた。今後も、全教職員が日常的に相談に応じる雰囲気大切に、生徒のSOSをキャッチして適切に対応していく。また、保護者や専門家、関係機関との連携をより一層強化していく。 | A | A |
| | 生徒を理解し、良いことや努力した場合、認めている。 | A | 今後も健康観察アプリや日常の何気ない一言や表情を注意深く観察するとともに、学校生活の様々な場面で生徒を温かく見守り、寄り添っていく。また、教職員自らの人間尊重の意識を向上させ、生徒一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを推進していく。 | A | A |

| 重点 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|-----------------|---|---|--|----------|---------|
| | | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 共通理解に基づいた生徒指導 | 生徒が学年や学級で好ましい交友関係になるように指導している。 | A | 週に一度「いじめ対策委員会」を実施して、教職員同士の情報共有を図り、適切な指導の方向性を検討することで組織的に対応することができた。引き続き、未然防止・早期発見・対処に努めつつ、生徒同士の相互承認の意識を高められるような関わりを大切にしていく。 | A | A |
| | 中学生らしい身なりや言動を指導している。 | A | 今後は、形式的な指導に留まらず、生徒が時と場所に応じた適切な身だしなみや言動を自ら考え、判断できる「自律心」の育成を重視していく。さらに、教育活動全体を通じて、規範意識の意義を深く理解させていく。 | A | A |
| | 学校関係者評価委員による意見 | 健康観察アプリや相談窓口周知カードなどで、子供の声を聴くことができる取組はとても良い。引き続き、子ども一人一人に対して丁寧な対応を続けてもらいたい。 | | | |
| 生き方指導の充実 | 進路や職業について、必要な情報を与え、指導している。 | A | 進路説明会や進路だよりを通じて、積極的に情報提供することができた。今後は、キャリア・パスポート等を活用し、生徒が将来を展望して主体的に進路を選択できるキャリア形成の支援を深化させていく。 | A | A |
| | 生命を大切に作る心や他人を思いやる心、善悪の判断などの道徳性が身に付くよう適切に指導している。 | A | 今後も、学校教育活動全体で道徳教育を推進し、生徒が互いを尊重し、支え合い、よりよく生きようとする態度を育みながら、豊かな心の育成を図っていく。 | A | A |
| | 学校関係者評価委員による意見 | 教師や親だけでなく、外部人材を活用した講演会や職業講話などの機会は、今後も増やしてほしい。多様な進路選択があり、引き続き丁寧な進路指導を期待する。 | | | |
| 小中及び家庭・地域社会との連携 | 学校は、学校だよりや学年だより、ホームページ等で学校、生徒の様子をわかりやすく伝えている。 | A | 毎日ホームページを更新するとともに、アプリを通じて保護者に対して積極的に情報を発信することができた。今後は、「社会に開かれた教育課程」の視点に立ち、生徒の主体的な活動や学びのプロセスをより重点的に発信し、家庭・地域との双方向の連携を深めていく。 | A | A |
| | 学校は、保護者や地域住民の要望等に、誠実かつ適切に対応している。 | A | 保護者や地域住民からの情報・要望等について、誠実に対応することができた。今後は、学校運営協議会等を通じた双方向の対話を深め、地域と協働して教育活動を改善する体制を作っていく。 | A | A |
| | 必要に応じて家庭と連絡を取り合うなど、家庭との連携に努めている。 | A | 保護者と情報共有を図ることができた。今後は、生徒の成長について、家庭や地域と共に支え合う「協働」の意識を更に深めることで、連携体制を強化していく。 | A | A |
| | 学校関係者評価委員による意見 | ホームページは毎日更新されているからこそ閲覧数が増えている。情報発信を丁寧にすることは重要。今後も継続してほしい。また、家庭や地域との情報共有を図りつつ、連携を深めてもらいたい。 | | | |
| 特別支援教育の充実 | 特別に支援を必要とする生徒に配慮するとともに、一人一人がお互いを認め合えるよう指導している。 | A | 一人一人の教育的ニーズを把握するとともに、個別の支援計画を立て、支援や助言を的確に実践する。また、社会モデルの視点で生徒を捉え、包摂性の高い（インクルーシブな）学校を目指していく。 | A | A |
| | 学校関係者評価委員による意見 | 「きよたまちの灯り」に参加したが、全体的にスムーズに動いていて、インクルーシブな空間だった。今後も校内の教職員間の連携を深めてインクルーシブ教育を推進してほしい。 | | | |
| 体やかな育成 | 健康や食に関する指導を適切に行っている。 | B | 給食だよりや保健だよりを通じた発信や、昼休み特別企画による体力向上の活動を継続することができた。今後は、ウェルビーイングを支える食育や健康管理を自分事として捉えられるような取組を工夫していく。 | A | A |
| | 学校関係者評価委員による意見 | 同じような情報提供になりがちであるため、視点を変えながら情報発信を継続してもらいたい。ウェルビーイングを支える健康な体と心の育成を目指してほしい。 | | | |
| 危機管理意識の醸成と定着 | 管理場所の安全点検をきちんと行い、安心・安全な環境づくりに努めている。 | B | 教職員の安全点検の意識は高いが、生徒や保護者の肯定率は8割に留まった。今後は、点検結果を可視化し共有することで、学校の安全意識と安心感の向上を図っていく。 | A | A |
| | 学校は、校務支援システムを効果的・効率的に活用している。 | A | 今後も更なる校務の効率化を推進し、生み出された時間を生徒への個別最適な支援や授業準備に充当していく。また、改定された札幌市教育情報セキュリティポリシーを遵守する。 | A | A |
| | 学校は、生徒の安全に配慮し、登下校指導など事故防止について、適切に指導している。 | A | 三者の肯定率がほぼ100%と、極めて高い評価を得ている。今後は、この体制を維持しつつ、生徒自身が危険を予測・回避する資質を育む安全教育を深化させていく。 | A | A |
| | 学校関係者評価委員による意見 | 生徒・保護者に発信する機会をいかに増やしていくか、現在の取組を維持しつつ、周囲の理解を深めてもらいたい。ハードとソフト両面の管理に一層努めてもらいたい。 | | | |